

# 自然と暮らしに目を向け みんなに歌を届けたい

シンガーソングライター 白井 貴子さん

1980年代に数々のヒット曲を出し、ロックの女王と呼ばれ一世を風靡した白井貴子さん。2年間の英国生活を機に自然や環境に目を向けた歌を描き、歌い続けています。2021年に茅葺師と出会ってからは茅刈りに参加したり、民家でコンサートを開いたりもしています。2023年11月、茅刈りの作業後の白井さんに、歌に込める思いなどのお話をうかがいました。

今日はこのインタビューを受ける前に、長野県小谷村おたりむらの茅場で茅葺師の親方・松澤朋典さんともひろ（小谷屋根）と茅刈りをするこ

とができました。今年で3度目なので刈れる茅の束（ひと抱えが1把）も増えました。念願だっ

た茅を乾燥させるためのニューウ（6把を束ねて3角形のテントのようにしたもの）をつくることのできたのでとても嬉しいです。私の手では届かないところもあり、松澤さんともひろにかなり手伝っていただきました。たが……。



白井 貴子 しらい たかこ

1959年1月19日神奈川県藤沢市に生まれる。京都女子高校卒・フェリス学院短期大学音楽科卒。卒業時期よりアマチュアバンド活動開始。1980年ソニーSDオーディションにて、初の女性アーティストとして合格。1984年に「CHANCE」のヒットをきっかけに、自ら曲を作り自身のバンド Crazy Boys と共に多くのライブを成功させ、女性ポップ&ロックの先駆者的存在となり「ロックの女王」と呼ばれるようになる。1998年から2年間充電のため英国に移住。2006年、デビュー25周年を期に、バンド活動を再始動。



完成したニューウと松澤さん、白井さん

## 茅刈りから学ぶ

2年前に松澤さんに出会い、その縁で屋根の葺き替えや茅刈りの現場を見たり、いろいろなことを教えていただきました。茅場で刈った茅が屋根に上がり、役目を終えた茅が土に戻ってそれが草木の栄養になる。1000年2000年単位で自然と人間が関わる循環があり、そこに人びとの暮らしがあったことがよく分かりました。

でもどうしてその大きな自然の循環から人間が離脱したのでしょうか。

茅場では多くの感動と発見があり、1分でも1秒でもいいから茅刈りに参加し

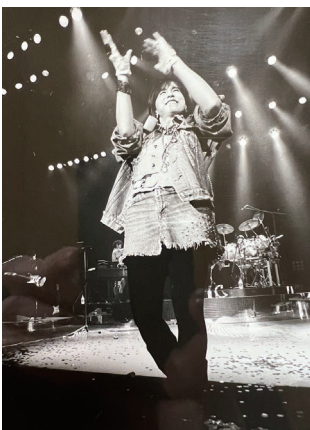
て少しでも循環の輪の中に入りたいと思っただけです。それが茅刈りに参加するようになった大きな理由です。

## 音楽の道へ

1981年にデビューして以来音楽活動を続け、今年で43年になります。

私にとって音楽は遊びと同じだったので、職業にしようとは思っていませんでした。大学の音楽科を出た後は、インテリアや家具が好きなので、家具会社で働きながらアマチュアバンドで歌っていました。そんな私を仲間が見て、「白井さんデビューした方がいいよ」と勝手にデモテープをソニーに持って行ったのです。そうしたらデビューが決まってしまいました。漫画みたいですね。私の人生を振り返ると、まわりで助けてくださる人が現れて運命が進んでいく感じですよ。

1982年に「SOMEDAY」、1984年には「CHANCE」がヒットして、ツアーや学園祭などで全国を駆け巡り、多いときは月に28本コンサートをしていました。



コンサートに明け暮れた1980年代